

平成27年6月18日

日刊工業新聞 掲載記事

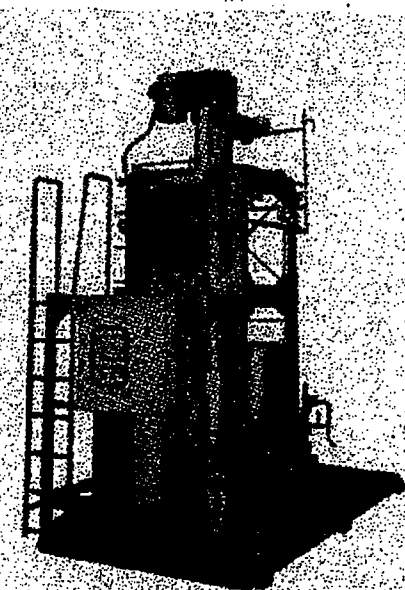
溶液濃縮粉末化装置の販路拡大

新分野に
売って出る

で粘性を高めている。それらは精度良く熱制御し、しっかりと混ぜる装置が必要。装置への要求が厳しくなってきた」
—新分野開拓での手応えは。

が安定し、膜不要のためメンテナンス性に優れる。こうした評判が声をかけてもらええるチャンスにつながったと考える。
「クリームの多機能化だ。化粧品クリームは多くの成分を混ぜるようから取引があったが、顧客ニーズが変化し当社のドクリームは嗜好の変化

「営業面の努力が不可欠となる。食品メーカーと粉体装置メーカー出身のベテラン技術者を採用した。若手の育成も進めている。提案型営業は難しいが、腰を据えて取り組み成長を維持したい」
—新分野での目標は。



櫻製作所のハイエバオレーター

櫻製作所社長
井上 正基氏

ベテラン採用し、提案営業

櫻製作所（大阪市淀川区、井上正基社長、06・63002・5881）は、膜なしで溶液や汚泥を濃縮、粉末化する装置「ハイエバオレーター」など製品の販路をリチウムイオン電池材料や食品、化粧品向けに広げている。前後工程を含めシステム提供する提案型営業にも積極的だ。井上社長に戦略を聞いた。
（大阪・石橋弘彰）
—新分野開拓のきっかけと現状は。

「リチウムイオン電池原料向けは引き合いが増えたことが契機。当社の装置は濃縮と乾燥の比率

「薬液注入装置など各製品をバランス良く伸ばしたいので明確な目標は置かず、受注を伸ばす。日本だけでなく、新興国にもチャンスがあると考えており、展示会の出展などで製品を訴求する」